

国連グローバル・コンパクト 2008 年度活動報告および 2009 年度活動計画

緒言

アミタは環境ソリューションを幅広く事業として提供していますが、環境事業は一つの要素のみによって成立するものではありません。物事の関係性によって成り立たせることで、意味のある商品とサービスを創り続けられるのです。

そして、アミタの特徴は、複数の関係性を組み合わせて新たな形にすることで、「循環型システム」を作り出している点です。この技術の蓄積によって、広く環境に関わる新たな社会ニーズを事業化しています。

現代は、衣食住に満足している約 7 億人の先進国とまだまだ物質的満足を追求する約 60 億人とに分かれ、先進国の人々は物質的に満足しても精神的に貧困化し飢餓化しています。こうした社会背景におけるニーズにこそ、意味のある新たな関係性を形にして、影響力を与える主体性をもった働きかけが重要と考えています。

私が国連グローバル・コンパクトの意義に賛同しているのは、企業や団体が中心となり、使い古された「環境」や「CSR」ではない新たな繋がりを紡ぎ出す源泉となる可能性に期待しているからです。是非、多くの企業や団体の方々に具体的な働きかけの一步として賛同いただき、共に、本質的な持続可能社会を実現したいと願っております。

アミタ株式会社 代表取締役社長 熊野英介



2008 年度活動報告

(1) 『人権』 に関して

■ 養護学校から生徒を受け入れ、総務課の業務など社会実習体験の機会を提供しました。

(2) 『労働基準』 に関して

■ メンタルヘルスに関する研修を引き続き行い、メンタルヘルスに関する知識と対応技術の向上を図り、従業員の心の不調の未然防止に努めました。

■ 京丹後にある「森林ノ牧場」の取り組みを通して、地域社会に新たな雇用を生み出しました。

■ 役員や社員が自分の専門性、業務知識や仕事観を、部署を超えて後輩に伝える「アミタスクール」の開講を引き続き行い、社外講師の招聘、幅広い講座の提供と、社員の教育機会の拡充を実現しました。

■社員が自分の想いをカタチにできる「創発プロジェクト」を引き続き開催しました。今年度は、プレゼン大会に加えディスカッション大会を設置し、より多くの部署からの意見を取り入れられるような機会を設置しました。計 96 件のエントリーがあり、書類選考やプレゼン大会を経て、5 件の提案に対して活動資金がおりました。

■茨城製造所及び姫路製造所に AED を設置し、緊急事態に備えた救命体制の強化を行いました。

■単位交換制のインターンシップを初導入し、学生向けに実務を体験してもらう機会の創出を行いました。

■危機管理の一環として、姫路・茨城の両循環資源製造所にて、地震や火災などの災害発生時における迅速かつ的確な行動力の向上や防災意識の徹底、連帯意識の醸成、緊急連絡体制の確認、そして安全対策を施している設備や装置の適切な操作確認などを目的として、姫路・茨城の両循環資源製造所にて一斉に実践的な防災訓練を実施しました。

(3) 『環境』に関して

■様々な工場で排出され廃棄物として扱われる多種多様な発生品を、引き続き 100%再資源化し、一切の焼却や埋め立てを行わないリサイクルを実現し続けています。更に、毎年再資源化処理量を増加させ、本業を通じ、周囲の環境に余計な負荷をかけない本質的な環境改善といえる真のリサイクルを継続しています。

■当社が提唱する森林酪農型の「森林ノ牧場」を開設し、林間で牛を通年放牧する酪農事業により、地域の森林資産価値の回復と自然な動物の営みと地域の関わりからなる価値ある環境創りに向けた取り組みを開始しました。

■京都府機船底曳網漁業連合会（京都府舞鶴市 以下、京都府底連）による、MSC（Marine Stewardship Council：海洋管理協議会）漁業管理認証のアジアで初めての取得に際して、弊社の専門家を認証審査員として派遣し、国際的規格に基づく厳格な審査を経て、国内導入に貢献しました。

■古紙監査サービスによる古紙配合率偽装への解決策の提示や、第三者として社有林 CO2 吸収量測定サービスなどの新サービスを開始し、環境監査についての信頼性を高め、各企業が取り組む環境負荷低減へのサポートを実施しました。また、既存の認証サービスとして、持続可能な自然資源の活用を推進する FSC 森林認証・MSC 漁業認証の普及に努めました。

■環境専門の人材派遣サービスにおいて、引き続き派遣人材の技術及び知識の強化を行い、より質の高いサービスの提供に務めました。

■環境教育を通して青少年が環境の大切さを学ぶ機会である「若武者育成塾」を引き続きサポートし、若者の環境意識を高めることに貢献しました。

■当社が事務局を担当している「エコ産業創出協議会」で、地球温暖化をできるだけ抑制し、地球を「クール」に保つため、CO2 削減をめざすアイデアを世界中から広く募集する『“Cool the Earth” アイデアコンテスト』

を昨年に引き続き開催しました。今回は、アメリカ、イギリス、インド、オーストラリア、ネパール、フィンランドなど、各国から総数 85 件（国内／ビジネス部門 20 件、国内／制度・政策部門 28 件、海外／ビジネス部門 21 件、海外／制度・政策部門 16 件）の応募があり、大賞、優秀賞（国内 / 国外）がそれぞれ選出され、協議会の活動を通じて世界の環境改善活動の推進を図りました。

(4) 『腐敗防止』に関して

■「アマタ行動規範」を定め、人としての基本姿勢や企業人としての基本行動などを示し、企業倫理と信頼関係の重要性とを宣言しました。「アマタ行動規範」の 7 項目は次の通りです。「1. 即対応」「2. 良関係」「3. 皆師匠」「4. 顧客創出」「5. 浪費追放」「6. 仲間創造」「7. 三行排除」

■コンプライアンスチェックテストを昨年に引き続き全社で実施し、各自の認識度を測ると同時に、改善に向けての啓蒙活動を行いました。

2009 年度活動計画

(1) 『人権』に関して

■京丹後・那須などで行っている「森林ノ牧場」での事業を通して、障がい者の方が働く機会をつくりだします。

(2) 『労働基準』に関して

■メンタルヘルスに関する研修を引き続き行い、メンタルヘルスに関する従業員の知識と対応技術の向上を実現することで、従業員の心の不調の未然防止を図ります。

■従業員やその家族が心身の不調、職場での悩み、育児・介護など家族の問題をウェブや電話でいつでも相談できる「サポートホットライン」を設置し、従業員の健康を守ります。

(3) 『環境』に関して

■FSC 森林認証や MSC 漁業認証のさらなる普及を目指すと同時に、今まで確立したこれらサービスのノウハウを生かし、持続可能な社会の実現につながる新たな認証サービスをより使いやすい形で社会に提供していきます。

■自然放牧型の「森林ノ牧場」を関東圏にも拡大をはかり、新たな森林価値づくりの取り組みを広げます。2009 年内に、森林酪農を実施している地域を 2 箇所へ、エリアの合計面積を 13 ヘクタールへと拡大します。また、「森林ノ牧場」を使い、森林空間や、森林と農業との循環を生かした、環境教育を展開していきます。

■再資源化施設「姫路循環資源製造所」と「茨城循環資源製造所」で再資源化できる廃棄物の量の拡充、受け入れ基準の拡大につとめ、循環型社会の形成に貢献します。

■環境分野の専門性を活かし、全国の企業の環境担当者に対して、環境管理業務や環境関連法の改正などについて、ウェブサイト・メールマガジン・セミナーなどを活用した啓発・情報提供を行います。
2009年内に、メールマガジンによる情報提供を行っている環境担当者の人数を6000名に引き上げることを目標とします。

(4)『腐敗防止』に関して

■上場以来継続している取り組みとして、今年も反社会的勢力との取引を防止するため、取引開始前に反社会的勢力との関連有無の調査を必ず行うなど、スクリーニング調査を実施します。

※ なお、これまでの活動報告は、アマタ株式会社コーポレートサイトの以下URLに掲載しております。ご参考ください。

<http://www.amita-net.co.jp/company/case/global-compact/index.html>